放送大学 北海道同窓会会報

第 18 号
発　行　放送大学北海道同窓会
発行責任者　中根　惠美子
編　集　広報担当
発行日　2011年5月25日(水)
URL:http://hhdoso.sakura.ne.jp
会員数191名(2011年4月30日現在)

柔軟で開放的な北海道同窓会！

北海道学習センター所長
筑　和　正　格

昨年度印象に残った出来事を２つ報告しながら、北海道同窓会の柔軟性・開放性（団体・組織が持続するために必要な要素の１つ）について語りたいと思います。

昨年の９月29日（金）に「放送大学北見同窓会」が発足いたしました。嬉しかったのは、私もその場に立ち会って一緒に祝うことができたことです。「同窓会」の名称をもつ団体は、すでに旭川と十勝（「学窓会」）に存在しており、それぞれの個性を発揮しながら活動を展開しています。北見の同窓会は独立性をもつ団体ですが、同時に、「北海道同窓会との連携」を会則に謳って、必要に応じて既存の同窓会組織と協力体制を組むという「開放性」を明示しております。「現役学生の勉学環境向上への助力」を目的の１つとする同窓会組織―しかも開放的な―の充実は、大いに歓迎すべきことです。

次は、「新方式で開催される研究発表会」についての報告です。毎年６月に開催される「全道生涯学習研究発表会」は、従来同窓会が主催しておりました。しかし、ご案内の方も多いと思いますが、今年の第７回発表会からは、同窓会からの提案を受けて、これを、在学生有志と共に組織する「実行委員会」方式で開催することにいたしました。「同窓生・在学生を含む学習センター全体の行事」へと転換したわけです。同窓会のこの提案は、昨秋来所した石学長の「同窓生と在学生の一体的活動」という要望を踏まえたものですが、ここにも、北海道同窓会の柔軟で開放的な姿勢を見てとることができます。

この開催方式をとることの利点は、学習センターが大手を振って実行委員会の活動をサポートすることができるというところにあります。同窓会は形式的には学外の組織ですから、同窓会主催の行事に学習センターが深入りすることは控えるのが世の常識です。しかし、全学生を網羅した活動であれば、それを支援するのは学習センターの義務です。放送大学は、同窓生が同時に在学生でもあることが多いという特徴をもっていますが、そうであればなおさら、センターはその活動を自然な形でサポートできるわけです。

もちろん、実行委員会法式であるからといって、同窓会のプレゼンス（影響力）が希薄になったということではありません。これまで６回にわたって研究会を開催してきた同窓会が蓄積したノウハウ（実践的知識）は、実行委員会の活動を支える貴重な基盤です。また、実行委員の中には、これまでの発表会の運営に携わってきた人も加わっています。表面に現れてはいないものの、同窓生が研究発表会を様々な場面で支えていることは、従来と何ら変わ

るところがありません。
ちなみに、年２回開催される「卒業を祝う会」は、従前通り同窓会の主催で行われます。
同窓生の皆さんには、こうした柔軟で開放的な姿勢をご承認の上、これまで通り同窓会活動にお力添えくださいますようお願いいたします。

「明日に向かって」

北海道同窓会　会長　中根惠美子

平成１６年６月５日に同窓会が設立してから７年が経とうとしています。丁度満７年目の６月４日、第７回全道生涯学習研究発表会が開催されます。生みの親であり育ての親である同窓会から、７回目からは北海道学習センターに所属する学生やサークルと一丸となって開催する第７回全道生涯学習研究発表会実行委員会に託しました。試行錯誤しながらも大切に育て、放送大学で学び研究した結果を発表する大切なステージを６年間作り続けてきました。
さらに成長・発展し飛躍し続けるためには全学生や同窓生が協働できるものであるべきだと考えました。手放すのは寂しいですが感慨深いものがあります。それは成長した姿を見る楽しみがあるからです。そしてこの会を継続し続ける事が私たちの使命であると考えています。

もう一つ同窓会が生みの親の「みんなの音楽祭」も北海道学習センターに所属する学生と同窓生が一体となって開催する「文化祭」の中に組み込みました。楽しく遊び、よく学ぶ北海道の放送大学生は全国で一番親しい学友が多い学生になって欲しいからです。同窓生であり学生である方々は実に学友が多いように思います。皆さんで文化祭を楽しみましょう。

卒業・修了を目前にした３月１１日の大震災は放送大学の学生や同窓生や職員・大学関係者にも多大な被害を及ぼしました。未曾有の混乱の中で、放送大学同窓会連合会会長は自分が被災しているにも拘らず、全国の同窓会に情報をリアルタイムに発信していました。そのメールを見る度に事態の深刻さを痛感し、私達同窓会も有志の学生と募金活動をしました。この同窓会のネットワークは学生にありません。学生にも情報を提供できました。
日本国中が支援に立ち上がり、発展途上国からも支援物資が届き世界中から支援が続いています。そのような中で、「がんばれ」ととても言えない被災地に、「立ち上がれ東北」と声援が各地から起き、「立ち上がれ日本」「がんばれ東日本」「がんばれ日本」との声援が出てきました。それと同時に復興に向けて、ボランティアも被災地に入り始めました。自衛隊は総力を挙げて頑張っている。復旧復興が、希望が見えてきました。
「前を向いて生きていこう」との声援にも人間同士の絆の強さを改めて思い知りました。自分たち一人ひとりがしっかり前を向いて明日に向かって歩いて行けたら良いですね。そして、それが自分自身を助け、周りも助ける事になると思います。これからもずっと手を繋いで助け合って生きましょう。そして被災地した学友をずっと支援していきましょう。

東北関東大震災により被災した皆様に

謹んでお見舞い申し上げます

一日も早い復旧復興を心からお祈り申し上げます。

現地へ行ってお手伝いしたい。行っても足手まといになるのでは。そんな気持ちで日々ニュースの中の惨状を知り、忸怩たる思いで過ごしているのは私ばかりでないと思います。本学の学友・同窓生では有りませんが被災地に行ってボランティアをしてきた本田さんにお願いして報告していただきました。

東松島　人々の住む土地　～津波のまちで感じたことと、支援継続の重要性

本田　梢

プロフィール

本田　梢。1986 年札幌生まれ。
短大卒業後就職し、人と自然の調和し得る道を探して離職。
札幌の脱原発や市民運動に関わる人々とのご縁から自らも関わり始め、
その後インドやヨーロッパなどを遍歴し、自然農のコミュニティーでの生活や
精神探求を経て帰国。
現在は介護の勉強をしつつ日々模索、修行中。

4 月 28 日の夜、札幌での日常を終えたその足で宮城県東松島市へ向けて出発した。むすびばのコーディネートで、仙台から 1 時間程の沿岸のその町へ、GW 期間中で災害ボランティアへ行くためだ。メンバーは今回の件で集まった、支援に関する特別な技能や知識のない全くの一般市民４名。お互いのことさえも良く知らないまま、「被災地」という未知で、暗く、何が起こるか分からない土地へ向けて車を走らせた。報道で見た、地獄図のような映像が頭の中を時々よぎった。

津軽海峡をフェリーで渡り、東松島へ着いたのは翌 29 日の夕方。「被災地」のイメージとは程遠く、大型ショッピングモールやコンビニは灯りを煌々とさせいつも通り営業している。なんの変哲もないような国道の脇には、泥に汚れた冷蔵庫やソファー、ありとあらゆるものが山積みに並んでいた。

それでもこの街に巨大地震と大津波が襲ったという現実をよく飲み込めないでいた。

私達は到着したその足で、まず東松島市のボランティアセンターへ伺い、ボランティア登

録をした。ボランティアセンターは大忙しの様子で、GW にあたってボランティアが通常の2－3 倍は多く、その対応に追われているようだった。

ここの仕組みは、まず被災された方から家の泥だしや清掃等の依頼をセンターが受け、その依頼にあったメンバーと装備を用意しボランティアをそのお宅に派遣するというもの。ボランティアは午前と午後に分かれ基本的には「二時間程度」と指示される。その時間内に作業が終わらない場合は（大抵は終わらない）ご依頼者に継続の希望を伺い、その旨をセンターに伝えると継続してボランティアを派遣する調整をする。

ボランティアセンターで受付をし、そこから徒歩 2－3 分位の距離にあるコミュニティパークにテントを設営した。GW ということでテントはびっしりだと予想していたが、思いのほかテントは十にも満たない程であった。仙台のビジネスホテルから通うボランティアや、車中泊のボランティアもかなり多いようだった。

現在は公園の水やトイレも復旧しており、700 メートル程先にはマックスバリュや酒屋、100 円ショップ、レストラン、ホームセンターまでもある大型のショッピングタウンがあり、非常食以外はほぼ現地で用意できる。買えるものは現地で買うことも現地の経済的支援に繋がると思う。

翌朝ボランティアを開始。

私達がボランティアに伺うお宅はいわゆる「半壊」の被害にあったお宅だ。全壊してしまった地域には、もう家自体がないため家の泥かきは必要なくなってしまう。

ある場所によっては外見はまったく通常通りに見えるが、もう二階も近い程の高さの壁に津波の痕が残り、家の中は海から運ばれてきたヘドロと誰のものとわからない漂着物でいっぱいになっている。

家が残った住民の方々は、その家に再び住めるように気の遠くなるような作業をしていかなければならない。すすのように真っ黒で重いヘドロや、泥を吸って男性でも持ち上げるのが大変な程重くなった畳を外に出し、ドロドロになってしまった床や窓、その他家に残ったものをきれいに洗う。時には泥で汚れて悪臭を吸った写真をきれいに洗って整理していくこと、他にも目に見えない細かいニーズが沢山ある。

それを支援するのがボランティアの仕事だ。

そしてそのニーズを満たしていくには、まだまだ、人手が足りていない。そのニーズは、そ

のお宅の事情によっても多様だ。ご高齢の家では本当に少しの力仕事でも大変な作業であるし、屋内の泥だしも終わっていないお宅もまだまだ沢山ある。
想像してみる。
海まで車で 10 分もかかるという住宅街でさえ、津波が押しよせ自分の背よりもうんと深くこの街を飲み込んでしまっていたということー
海の傍の地域では、松島の美しい松は根こそぎ剥がれて、まるで大きな怪物が全てを破壊していったかのような光景。この海がどれ程の高さをもって押し寄せたんだろうー
壊れてしまったその場所に立っていても、それはあまりに現実味のないものに感じてしまう。見たこともない、経験したこともない、この場所を津波が飲み込んでいったということが、自分の想像できる範囲を超えていた。

支援に伺った住民の方々の多くは、ボランティアに対し、とても明るく、感謝と気遣いをもって接してくださった。私は一生懸命、その方々が今、どんな気持ちなのか、どんなことを感じているのか、考えた。
しかし、津波の脅威と彼らの境遇を経験していない私には、彼らが心の奥深く何を感じているのか、分かるはずもなかった。「本当にありがとうございました」という感謝の言葉に対し、ただただ、深く頭を下げるしかなかった。

5 月 4 日の午後に、東松島から被害のなかった内陸の道を通って仙台港へ向かった私は非常にショックを受けた。津波というものは本当に、線を引いたように、被害のある地域とない地域を分けてしまう。
仙台港の周辺は、大型店舗や工業施設が多い地域で、大型店舗は波で突き破られ、町は破壊されていた。破壊されたその無機質な工業地帯の空っ風の中、立ちつくし、自分が東松島でしてきたことがどれ程ちっぽけだったのかということを感じずにはいられなかった。

それでも、それがほんの一滴の希望を渡せる手助けになるのなら、きっと意味のあることだろうとも強く感じずにはいられない。

一緒に行ったメンバーが市役所の駐車場で座っていたら一人のおじいさんに話しかけられたそうだ。深々と頭をさげて、「津波で泥まみれになってしまった自宅を見て、途方にくれて何もする気にならなかった。そこにボランティアの方がきて家の泥を出していってくれた。今ではまたその家に住む希望を持ち一生懸命掃除している。」と。

私は直接「東松島」という名前も知らなかった土地に行き、私の中で、報道で見ていた地獄図のような暗く希望の持てない「被災地」は、「人の住む土地」と変わった。
それは、悲惨さ故に駆り立てられるのではなく、そこに住む人々の力になれたらというもっと純粋な願いになったのかもしれない。
想像上の不幸な土地ではなく、ただ家族や友人を想うように、私は可能な限り力になりた

い。

だから私は、多くの人に、うまく言葉にできない複雑な思いも含めて、今回東松島で感じたことを伝えたい。そして多くの人に、可能なのなら実際にそこへ行ってほしい。
まだまだ多くのニーズがある。人手が必要だ。女性、男性、それぞれが必要だ。
何より、復興は本当に時間のかかる道のりだ。今回をスタートに、長く継続的に支援していくことこそが必要だ。
札幌から支援を末長く続けていく体制を築いていけたらと考えている。

壊れてしまった街の中にも、自然はいつも通りの春を迎え、花を咲かせ鳥が鳴いていた。その強さと美しさをもきっと感じると思う。

本田　梢さんお疲れさまでした。そしてありがとうございました。

∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞ ∞

義援金へのご協力有難うございました。

去る３月 27 日の学位授与式での募金は４万円が集まり、日本赤十字社を通じて寄付いたしました。また、４月２日の入学者の集いの時の募金は４万円に少し不足する金額でしたが、同窓会会計が不足額を自分の財布から足して４万円にして、学習センターを通じて日本赤十字社を経由して寄付しました。また、会費納入時の郵便振込みでの義援金は、５月１７日現在で１０１０００円を預かりました。学習センターを通じで大学が、被災した学生・大学職員へ配布するための寄付としました。

多くの同窓生や有志の学生・学習センター職員の方々からの暖かいご支援、義援金にお礼を申し上げます。引き続き被災した学生や職員への支援にご理解とご協力をお願い申し上げます。

第７回定期総会を開催しました

平成 23 年度定期総会を 4 月 30 日（土）午後２時から、学習センター６Ｆ会議室で開催しました。会長挨拶の後、顧問の筑和学習センター所長からご挨拶を頂き会員 191 名　出席者 22 名欠席委任状 54 名と報告の後、議事に入りました。
第１号～第３号議案（平成 22 年度事業経過報告・会計収支決算報告・会計監査報告)、第４号～第５号議案（平成 23 年度事業計画案・会計収支予算案)、第６号議案(役員改選）について、いずれも承認可決されました。
※議案書は送付したとおり。ここには一部の第２号・５号・6 号のみ掲載いたします。

平成 22 年度の北海道同窓会の主な行事としては、

１、諸会議の開催

（１）定期総会を 5 月１日に開催しました。
（２）役員会は必要な都度開催しました。
（３）三役会、臨時役員会は必要に応じて開催しました
（４）正副会長候補選考委員会を４回開催しました。

２、各種の行事

（１）「卒業を祝う会」を１０月２日「学位記授与式」に合わせ開催しました。あわせて卒業生の感想文を「ひとこと集」にまとめ発行しました。平成２３年３月２７日は「卒業・修了記念茶話会」とし「学位記授与式」に合わせ開催しました。あわせて卒業生の感想文を「ひとこと集」にまとめ発行しました。
（２）第６回全道生涯教育研究発表会「6 月５日（土)」を道民カレッジとの連携講座として行いました。
（３）「みんなの音楽祭」は８月２１日（土）開催し、大盛況でした。
（４）10 月は文化祭実行委員会に参加し学習センター全体の行事として盛り上がりました。
（５）学友会等のサークル活動などの行事に参加し、同窓生と在学生との交流を深めました。
（６）海岸清掃・街美化などのボランティアに積極的に参加しました。また、ビーチコーミングで海岸漂着物の学術的データ集積にも協力しました。

３、会報の発行

第 16 号(5 月 25 日発行)と第 17 号(1 月１日発行)を発行しました。

４、広報活動

（１）年２回（９月・３月）の卒業にあわせ、会員募集を実施し、ほかに、センターの掲示板を使った広報活動を年間通じ実施しました。
（２）同窓会のホームページを活用し、会の活動をＰＲしてきました。

第 2 号議案

2010 年度会計収支決算書

（2010 年 4 月 1 日～2011 年 3 月 31 日）

○収入の部　　単位:円

科　目	予算額	決算額	増 減	備 考
繰越金	287,921	287,921	0	
繰越前受会費	198,000	198,000	0	2011 年度以降分
入会金	30,000	29,000	△ 1,000	前受入会金 17000
年会費	160,000	149,000	△ 11,000	前受会費 96000
その他の収入	79	135	56	受取利子
当期前受会費		112,000	112,000	2011 年度以降分
合　計	676,000	776,056	100,056	

○支出の部

科　目	予算額	決算額	増 減	備 考
通信費	25,000	16,000	△ 9,000	総会案内送料ほか
事務費	15,000	13,810	△ 1,190	用紙代ほか
行事費	135,000	82,932	△ 52,068	
（生涯学習研究費）	20,000	18,566	△ 1,434	下記の内訳のとおり
（音楽会）	10,000	-13,315	△ 23,315	下記の内訳のとおり
（会報・広報費）	50,000	49,657	△ 343	
（卒業を祝う会費）	25,000	22,499	△ 2,501	下記の内訳のとおり
（ホームページ費）	10,000	5,525	△ 4,475	
（その他）	20,000	0	△ 20,000	
旅費交通費	45,000	44,000	△ 1,000	
（交通費）	25,000	24,000	△ 1,000	役員等交通費補助
（旅費）	20,000	20,000	0	
予備費	258,000	40,000	△ 218,000	
次期繰越前受会費	198,000	310,000	112,000	下記の内訳のとおり
次期繰越金		269,314	269,314	預金 113,624、郵便振替 465,690
合　計	676,000	776,056	100,056	残高 579,314

行事費の内訳

項　目	収　入	支　出	決算額	備　考
生涯学習研究費	35,800	54,366	18,566	第6回発表会
音楽会	164,680	151,365	-13,315	第2回みんなの音楽会
卒業を祝う会	55,600	78,099	22,499	前期祝う会、後期祝う会

※後期祝う会の記念品代（ひとこと集）・一部経費は次期に繰り越し、支払する。

◎年会費(入会金を含む)前受金納入状況

科　目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度
前受金	98,000	57,000	46,000	33,000	20,000	15,000

科　目	2017年度	2018年度	2019年度	2019年度以降分	合　計
前受金	11,000	10,000	8,000	12,000	310,000

平成 23 年度の北海道同窓会の主な行事としては、

１、諸会議の開催

（１）定期総会を 4 月 30 日に開催します。

（２）役員会は必要な都度開催します。

（３）三役会、臨時役員会は必要に応じて開催します。

２、各種の行事

（１）「卒業・修了を祝う会」を年 2 回の「卒業証書・学位記授与式」に合わせ開催します。あわせて卒業生の感想文を「ひとこと集」にまとめ発行します。

（２）第 7 回全道生涯教育研究発表会「6 月 4 日（土)」は今回から実行委員会に参加して学習センター全体で行います。この事業に補助金２万円を提供する事にしました。

（３）文化祭の中にみんなの音楽祭(10 月 15 日（土）開催)を加え実行委員会に参加します。この事業に補助金２万円を提供する事にしました。

（４)学友会等のクラブ活動などの行事に参加し、同窓生と在学生との交流を深めます。

(5) 海岸清掃・街美化などのボランティアに積極的に参加します。また、ビーチコーミングで海岸漂着物の学術的データ集積にも協力します。

３、会報の発行

年２回以上発行します。

４、広報活動

（１）年２回（９月・３月）の卒業にあわせ、会員募集を実施するほか、センターの掲示板を使った広報活動を年間通じ実施します。

（２）同窓会のホームページを活用し、会の活動をＰＲしていきます。

第 5 号議案

2011 年度会計収支予算

(2011 年 4 月 1 日～2012 年 3 月 31 日)

○収入の部　　単位:円

科　目	予 算 額	備　考
前期繰越金	269,314	
繰越前受会費	212,000	2012 年度以降分
入会金	20,000	前受入会金 10,000
年会費	150,000	前受会費 88,000
助成金	70,000	
その他の収入	86	受取利息
合　計	721,400	

○支出の部

科　目	予 算 額	備　考
通信費	25,000	総会案内送料ほか
事務費	20,000	用紙代ほか
事業費	160,000	下記内訳のとおり
(生涯学習発表会助成)	20,000	実行委員会
(音楽会助成)	10,000	実行委員会
(会報･広報費)	75,000	会報･広報制作費、送料ほか
(卒業を祝う会費)	25,000	祝う会費、記念品代との差額
(ホームページ費)	10,000	ホームページ運営費用
(その他)	20,000	講演会などの行事
旅費交通費	65,000	下記内訳のとおり
(交通費)	25,000	役員交通費補助
(旅費)	40,000	同窓会連合会会議旅費補助
次期繰越前受会費	212,000	2012 年度以降分
予備費	239,400	
合　計	721,400	

放送大学北海道同窓会役員改選次期役員

第6号議案

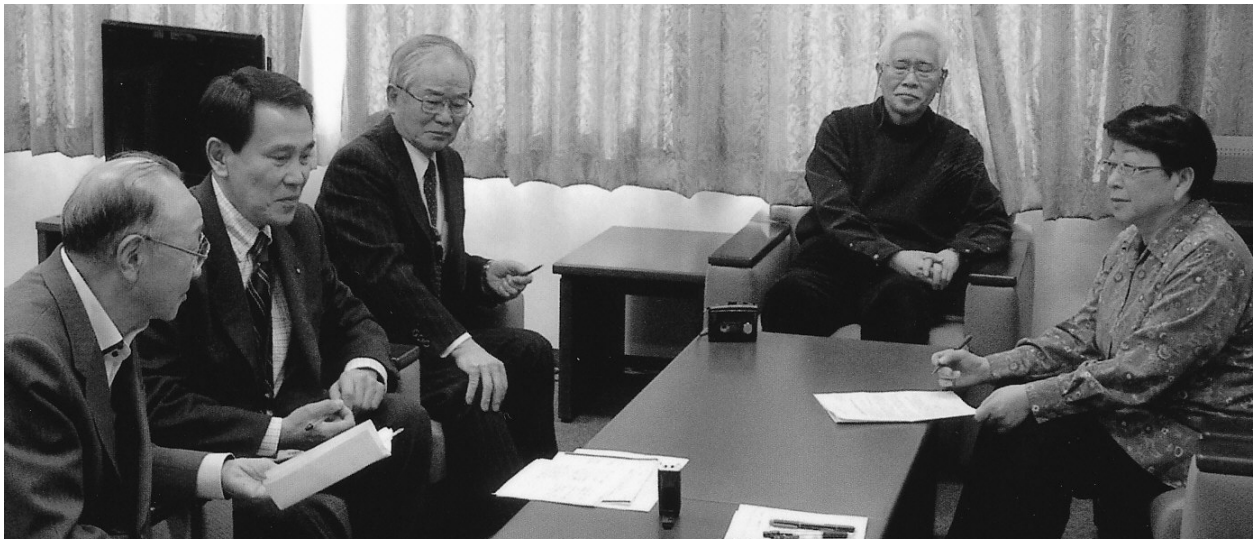
会長	中根　惠美子		
副会長	鈴木　　誠	副会長	結城　愛子
幹事	安藤　典子	幹事	具志　千晶
幹事	中原　美代子		

監査	武井　俊介	監査	長谷部　清	
参与	冨田　房男	参与	学友会 会長	小林　祐吉

前年の総会から総会終了後、親睦会を開催しています。皆さんの楽しそうな顔を見てください。総会出席者２２名の内帰られたのは１名のみ。殆どの総会出席者が親睦会にも参加しました。来年の総会は皆さんも是非ご参加下さいね。

座談会「北海道学習センターの学生活動について」に参加しました。

日時：平成 23 年 3 月 18 日　学友会主催　出席者　筑和センター所長　小林学友会会長
成田学友会理事　杉山学友会副会長　中根同窓会会長
伸びて行く学生活動・放送大学の勉強と活動･学会とは・文化祭のサロン化・学友会のあり方を活発に発言し、筑和先生や学友会の方々と有意義な意見交換が出来た座談会でした。
詳細は学友会会報をご覧下さい。



＜２０１１年３月２７日学位授与式の様子＞

2010 年度 2 学期卒業･修了記念茶話会報告

＜卒業･修了記念茶話会の様子＞

「学び」を胸に

放送大学客員教授　　西堀ゆり

長年のご苦労が実って、ご卒業の日を迎えられた皆さんに、「贈る言葉」をお届けします。勉学と仕事との両立、家庭との両立、いえ、それどころか、他の大学では見られないような三立、四立、多立、並び立たない条件を不撓不屈の意志でいくつも並び立たせ、隘路をぬって、ここに到達されたことでしょう。諦めず、倦まず、弛まず、ひたすら勉学を続けられた皆さんに、心から敬意を表します。

皆さんのご卒業の 3 月は華やかな門出の月ではなく、辛い 3 月になりました。東北関東大震災、そして、原発事故と、未曾有の苦難を迎えています。私達の北海道学習センターは、東北の青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の各学習センターと共に北海道・東北ブロックを形成しています。毎学期には北海道・東北ブロック版の面接授業時間割を発行し、学びを共有してきました。東北ブロックの各センターの名前は連日被災者の報告が行われる土地の名前と一致し、聞く度に、心が痛くなります。卒業によって、これまでの艱難辛苦に終わりが来るのではなく、それに倍する艱難辛苦が待ち受けているのです。無事であれかしと祈りながら、放送大学で得た「学び」を胸に、持ち前の不撓不屈の意志で、きっと復興の道に力強く貢献してくれるだろうと、信頼と応援の気持ちがこみ上げて来ます。彼らはきっと乗り越える。乗り越える時に、私達の支える手は無数にある。

北海道学習センターの皆さんへ贈る言葉はただ一つです。放送大学での「学び」を胸に、支える無数の手になって下さい。復旧と復興を目指す東北、そして、日本の国に、放送大学での「学び」の成果を持って、「乗り越える」時の支え手になって下さい。皆さんが卒業までの紆余曲折の狭間を乗り越えている時、差し出された手は、暖かく、強かったと思います。

今これから、「暖かく、強き手」になる道が待っています。放送大学での「学び」とはいつでもどこでも学ぶ意欲と気力です。これがあれば、創意工夫を重ね、独自の地平を開拓することも可能です。特に、卒業研究で論文制作をされた方達は、この独自の方法確立を、身をもって体験されたことでしょう。これこそが自律学習です。放大生はもっとも進んだ自律学習者なのです。誇りを持って、放送大学での「学び」を胸に、希望をたぐり寄せる力を生み出していって下さい。皆さんの前途に幸多かれと祈ります。

ご卒業・修了された皆様から寄せられた喜びの「ひとこと」です。

中原　美代子

両親の介護と予防医学の仕事をしながら、放送大学で 10 年間学ばせていただき無事卒業できましたことを感謝致します。放送大学、学習センターの事務局の皆様、諸先生にお世話になり心より感謝申し上げます。
今後地域の人達とのコミュニケーションを密にしてお役に立たせていただく努力をして行きます。

札幌市　　吉田　秀人

両親から一銭の仕送りも受けず、子供からの資金援助を望まず、自力で卒業できた。ただし、妻と子供たちからの励ましをたくさんもらった。一番の思い出は 68 歳から初めてフランス語を受講し、71 歳で仏検 3 級に合格、妻とフランス旅行をしたことである。

大学卒業は、昨年の喜寿の祝いに続く喜びで、人生の快挙であると考える。諸先生たちの熱心なご教授とすぐれたテキストに感謝している。また、事務局の方々にも感謝している次第である。4 月から大学院の選科履修生として息の長い勉強に励みたい。

札幌市　　品田　豊

四年前、編入で入学をし、安易に 2 年間で卒業できると簡単に思い込み、いざ始まるとなんと大変､試験日には仕事で行けない､視聴室にも仲々行けれない､勉強は眠くて出来ない、できないだらけの四年間でした。
しかし、家族にも友人にも絶対卒業してみせると公言した以上、辞める訳にもいかず、なんとか卒業にたどりつき一安心、やればできると再認識をしたところです。
関係者の皆様ありがとうございました。

第 7 回

全道生涯学習研究発表会

1 記念講演 ： 放送大学北海道学習センター所長 筑和正格 氏

演題：効果的な「学習」「研究」とは？～研究は「温故知新」の精神で！～

「学習」と「研究」の違いは、比較的わかりやすいものでしょう。一言で言ってしまえば、「能動性の程度の違い」ということになります。本講演では、まず「学習」とはどんな作業のことをいうのかについて、また、この作業に際して心がけるべきことは何かについて考えます。ついで、より能動性が高い作業である「研究」へと目を向けます。ここでは、主として研究成果の発表形式に的を絞って考えてみます。そうすると、ある特定の形式がそこに浮かび上がってくるでしょう。それは、皆さんが「なーんだ、あれかぁ」と思わず口にしそうな、昔懐かしい形式で、リニアル（直線的）な論進行を旨とする最近の学術研究領域では古臭いものとして化石扱いされている文章作成法です。しかしながら、「古臭い」という評価は、実は一つの誤解に、難のある理解に由来しております。この形式を、具体例を検討しながらきちんと解釈し直して、効果的な研究方法を見つけ出そうというのが本講演の趣旨です。ぜひ、一緒に考えてみましょう。

2010 年３月まで北海道大学大学院教授（メディア・コミュニケーション研究院）。北海道大学言語文化部長、大学院国際広報メディア研究科長、評議員、キャンパス環境委員長、点検評価委員等を歴任。2010 年４月から放送大学特任教授・北海道学習センター所長。
研究テーマは「文学はいかに近代を表象しているか」。研究対象は、ドイツ文学（特にベルリン都市文学）、異界文学、まちそだて論。研究の特徴は、社会学の知見を応用した文学研究という点。

日 時 ： 2011 年6月 4 日(土) 12:00－16:30 受付:12:00 開始 12:30-16:30 終了
ところ ： 放送大学 北海道学習センター6F 大講義室 札幌市北区北 17 条西８丁目(北大構内)
主 催 ： 第 7 回全道生涯学習研究発表会実行委員会（放送大学 北海道学習センター）
共 催 ： 放送大学 北海道学習センター
後 援 ： 道民カレッジ講座・北海道教育委員会・札幌市教育委員会

＜同窓会幹事　退任挨拶＞

「一会員として新たな思いで！」

前副会長　　大橋ちよ子

放送大学北海道同窓会の幹事として、同窓会設立当初から種々な役割に携わらせていただきました。会員・多くの皆様のご協力・ご指導を心より感謝申し上げます。今年度から一会員として活動に参加させていただきます。

今後は、放送大学の学生として、北海道の地域でどの様な視点で学んで行ったらよいか、同窓会では、どの様な方向性で活動していったらよいか、一会員として新たな思いで、今までの活動を見直し、検討していきたいと思います。

北海道は、広大な豊かな土地があり、大きな将来展望を持った地域でもあります。同時に、広大であるが故に医療や社会福祉の面においては、様々な地域格差が生じています。健康で安心して生活するためには、様々な阻害因子的事情があります。私達放送大学の学生は、しっかりとその問題と向き合い勉学と研究をしながら、解決していくことに関わらなければならない時期にきたと思います。また、同窓会では、勤労学生や遠隔地の学生達が、少しでも勉学しやすいように、協力していく役割を担ってこそ活動の意義がありと思います。

今年 3 月 11 日の東日本大震災によって、多くの被災者が、これからどう生活していったらよいか、日増しに不安が増大しているように思います。特に健康面や社会福祉面においても、様々な問題が露呈し山積みされております。

また、被災地域の人々が、お互いに助け合い協力し合っている姿をテレビで見る度に学ぶことが沢山あります。特に、共助のコミュ二ケーションの構築プロセスは、日々の生活の関わりが基礎になり、自然な形つくられていくことが分かりました。そして、地域と一体となった教育の大切さも感じました。

この北海道学習センターで学ぶ学生・同窓生としても、日々の学生生活や日常生活を見直しながら、どの様な関わりが大切であるかを、再度、検討することも必要であると思います。

先日、5 月 13 日の社会保障制度の改正案では、公平性と共助を盛り込んだ案が発表されました。どの様な内容なのでしょうか？一人で、勉強し考えても理解出来ない事柄や状況が沢山あります。この事柄に関心のある方々が、話し合う場があるとより理解出来て問題解決の糸口が見つかるかもしれません。他の問題についても同様に関心のある人達で話し合う場が必要ではないでしょうか。chiyoko.ohashi@gmail.com　＞

この震災によって、更に大きな転換期となり、放送大学においても学生・大学そして地域などそれぞれの立場で視点を変えて話し合う場を展開していく時期にきていると思います。私達は、話し合いの場としてのゼミを毎月 1 回設けております。是非、下記にメールくださり、それぞれの仲間と、共に話し合い、研究などしていきたいと思います。

会費納入と新入会員募集のお知らせ

2011 年度の継続会員の方は、今年度の年会費 **1,000 円**を下記口座へ納入くださるようご協力をお願いします。

また、同窓生の中で同窓会に入会していない方がおられましたら、入会をおすすめくださるようお願いいたします。

入会を希望される方は、郵便振替用紙に「氏名、住所、電話番号、卒業年月、専攻」をご記入の上、入会金 1,000 円、年会費（初年度）1,000 円を下記口座へご送金ください。（次年度以降は年会費のみとなります。）

郵便口座名　放送大学北海道同窓会

口座番号　０２７４０−０−３７７２５

放送大学を宣伝してください！

皆さんの『口コミ』で、放送大学に入学して良かったと思うことを、大勢の方々に知らせてください。

入学等に関する問合せ先

放送大学北海道学習センター

TEL　011−736−6318

「会員の声・読者の声」募集中！

現在、会員や読者の皆さんの声を募集しております。皆さんの近況や会報へのご感想、ご意見がございましたら、是非、お寄せください。

〒060-0817 札幌市北区北 17 条西８丁目

放送大学北海道学習センター内

放送大学北海道同窓会

学習センター事務室内ポストに直接投函してくださる事も可能です

URL：http://hhdoso.sakura.ne.jp

新入会員のご紹介！！（敬称略・順不同）

2011 年 3 月卒業生

（発）品田　　豊　　（生）木幡　泰子

（発）中原　美代子　（心）加藤　くみ

（人）吉田　秀人　　（社）福田　智子

（院）清水　浩光　　（院）福島　喜八

（院）持田　大

〒・住所・電話番号などの変更のときは、必ず、ご連絡をお願いいたします。

広告原稿募集！

同窓会会報では在学生のサークル活動などの人員募集広告を奉仕で掲載します。次号は 10 月 25 日が〆切ですのでこの囲み程の原稿をお持ち下さい。尚、紙面に限りがありますので、先着順とさせて頂きます。

お申込は E-Mail にて

tomi-2.7.2@jcom.home.ne.jp 中根宛にお願いします。

編集後記

未曾有の大震災にショックを受けていたら、野山には着実に花々が咲き誇り、瓦礫の間からも可憐にそして力強く草花が伸びて咲いている。この花を見て、日本中の人々、特に被災した方々もどんなに勇気付けられた事か。自然の弛まない営みを私たちも見習わねばならない。これこそ継続は力なりで学習や研究も自然の草木と同様に弛まぬ営みを続けて花を咲かせる事。論文にして発表する事に繋がっている。あっという間に葉桜になり、もうライラックが咲き始めた。油断していると時が知らぬ間に過ぎていく。「少年老い易く学なりがたし」肝に命じよう。

惠美子